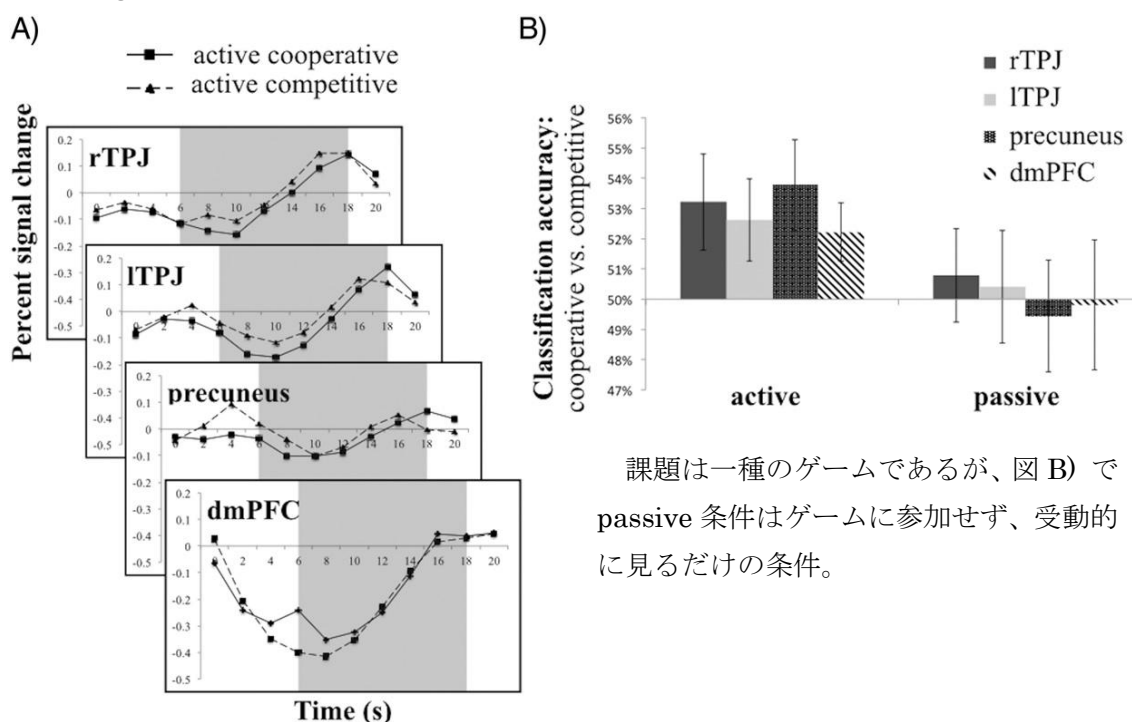


### 13. 社会的交渉の MVPA

今月紹介した論文で Tsoi et al. (2016) *Neuroimage*, 137:86-96. は心の理論 ToM に関する両側の側頭頭頂接合部 TPJ, 楔前部 precuneus, 背内側前頭前野 dmPFC が協調的、競争的な社会交渉でどのような活性を示すのかを fMRI で検討し、さらに MVPA (decoding, classification) を適用して、協調的、競争的な関係がどのように表象されているか調べた。

下図 A) が univariate の結果で、これら 4 領域に活性の変化は見られるが、協調的 vs 競争的な交渉で活性に差がない。B) が MVPA の結果で、協調的 vs 競争的で classification (decoding) に有意になっている。



課題は一種のゲームであるが、図 B) で passive 条件はゲームに参加せず、受動的に見るだけの条件。

わたしは社会的な事態の実験の経験が少ないので実験が思い浮かばない。専門にやっている方はいろいろ思いつくのではないかな。そういえば、嘘の実験をしたことがある。倫理的に許されない嘘、許される嘘、自己の利益ためにつく嘘、他者の利益のためにつく嘘、それらと ToM や共感、モラル、さらには性格特性との関係が頭に浮かんだ。

ただ、ここでこの論文を取り上げたのは TPJ の機能が気になっていたからでもある。この領域は自他の運動に関わっており、自己が他者を取り込む入口のような領域でもある。Decety & Lamm (2007) は PET, fMRI 研究のメタ分析でこれらの機能を分ける試みを行っており、Mars et al. (2012) は機能結合からこの領域を分けようとした。MVPA による検討があってもいいだろう。

Decety, J. & Lamm, C. (2007) *Neuroscientist*, 13:580-593

Mars, R.B. et al. (2012) *Cereb. Cortex*, 22:1894-1903